

答 辞

暖かな日差しが心地よく、命の躍動する春の訪れを感じる季節となりました。

本日は、学長先生を始め、諸先生方、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、私たち卒業生のためにこのような素晴らしい式典を挙げてくださり、卒業生一同、心より御礼申し上げます。また、皆様から祝福と励ましのお言葉を賜り、身の引き締まる思いとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。

振り返ると、入学してから本日に至るまでの二年間は瞬間に過ぎてしまったように思います。二年前の春、私たちは新たに始まる学生生活に期待と不安が入り交じる気持ちを抱きながら入学式を迎えました。入学当初は、キャンパスライフの何もかもが新鮮に感じられ、環境の変化に不安や戸惑いを感じることもありました。そのような中、私たちの気持ちに寄り添い、親身になってくださる先生方や、保育者になるという同じ志を持つ仲間との出会いにより、とても充実した学生生活を送ることができました。

学内外での活動を含め、この二年間で、私たちは保育者になるためのかけがえのない学びを得ることができました。日々の講義では、保育の専門知識や実践的な技能・技術を学び、また、学外オリエンテーションや、グループワークキャンプ、作新祭、クリスマス会といった数多くの行事をとおして様々な経験をすることができました。

私にとって、特に思い出深い経験は、保育園での実習です。私の不慣れな声かけや手つきでも試行錯誤して何度も実践するうちに子どもたちとの信頼関係が築け、目の前の子どもたちが「先生大好き」と言葉をかけてくれる場面もありました。実習をとおして、子どもの発達や成長、子どもの笑顔や幸せを守り支えていく保育の仕事の素晴らしさを知るとともに、信頼される保育者になりたいという思いが強くなりました。

未熟な私たちですが、無事に卒業の日を迎えることができました。この日を迎えるまでには、多くの方々のおかげがありました。私たち学生のために親身に向き合い、熱心に指導して下さった先生方、学生生活を多方面から支援して下さった職員の皆様に心から感謝申し上げます。

また、学生生活の限られた時間の中で、一緒に協力し講義の課題や学友会の行事を成し遂げ、大変なことや辛い気持ち、嬉しい気持ちを共に分かち合ってくれた友人たちに心から感謝しています。皆さんと出会い、同じ夢に向かって励まし合ったこと、たわいもない会話で笑い合ったこと、全てが貴重な時間でした。皆さんの笑顔に会えなくなると思うと寂しい気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

そして、私たちを一番近くで支え、見守り続けてくれた家族に心から感謝しています。どんな時も味方になり、励ましの言葉で応援してくれました。本当にありがとうございました。

私たち卒業生はこの女子短期大学部で過ごす間に、様々な人・物・出来事との出会いがあり、その積み重ねをもって自身の人間性を磨いてきました。時にはそれまで積み重ねてきた経験だけでは乗り越えられない困難に直面することもありました。そんな時は、「自分はどのように考え、どう行動するのか」と繰り返し自問自答することで一つずつ乗り越えてきました。学生生活をとおして磨いてきた人間性や困難な問題を自分のこととして捉え真摯に向き合うことは、これからの未来を切り開く力になると信じています。私たちは、本日、女子短期大学部を卒業し、それぞれが決めた道を歩んでいきます。学生生活で培った経験を自信に変え、保育の分野を学び深めた者として何ができるのか、何をすべきかを意識しながら、一人ひとりが一歩ずつ自分らしく成長していくことをここに決意いたします。

最後になりましたが、作新学院大学女子短期大学部のこれからの益々のご発展と、学長先生を始め、教職員の皆様のご健康、在学生の皆様の更なる飛躍を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和六年三月十七日
作新学院大学女子短期大学部
卒業生代表 山口 佳子